

# みやけの風

## 第 109 号

平成13年(2003年)1月25日(土)発行  
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
 発行責任者：上原 泰男  
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階  
 東京ボランティア 市民活動センター気付  
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

「こないだの雪はすごかったね」「気温も低かったんだね。あつという間に、屋根やら木の枝やらに積もったもの」「でも、次の日には温かい陽だまりではすっかり溶けていたね」「雪といえば、東京では今日は富士山がものすごくよく見えるね」「こちらにいる間に、島では出来なかったいろんなことを経験して帰りたいね」「そうだよな」

### みんなの声

#### 真冬のゴキブリ退治で大奮闘！の巻

1月22日「弘兄どうしてる？」と電話が入って、私は「元気だよ、今、ゴキブリ退治で大奮闘しているところよ」ワッハッハッと笑いあったけれど、この真冬に異変が起きているのです。支援センターにまで伝わって、記事を頼まれ、正直に記すのもまた楽しいかなとペンを取りました。

3回目の新年を迎えましたが、お元気ですか？山あり谷ありの日々の暮らしですが、身体も精神もバランスがとれて、家族の絆を深めてゆけば、まあ道は開けていくもの、おかげ様の気持ちでいっぱいです。

三宅恋しの胸の内を歌いながら、何度涙を流したことでしょうか。

私の夫、海運丸は、島の男も器用さを発揮して、居住地の団地で力仕事から大工、

樹木の手入れ、蛍光灯の取り替えなど、損得ぬきで、人のため世のために尽くしています。けれどゴキブリ退治とは気の毒で、私も手伝おうと、見つけると手の平でピシッとつぶします。手を洗えばいいさと太っ腹の私に較べて、夫はティッシュと騒ぐのでゴキブリは逃げ足の早いこと。ほうさん団子を作ったり、駆除薬を買いますが、効き目はありません。不思議です。

どうしたものか、これもご愛嬌と心得て、帰島したあかつきには、「あの時はゴキブリと四つに組んで立派だったよ」と、ほめてあげたいと思います。

何があっても負けず、そして日本のどの地でも住める強い精神力に乾杯したいです。

もう少しの辛抱です。がんばりましょうね。

(台東区 阿古 佐々木 美代子)

### 耳より情報



懐かしい島の味に会いにきませんか？

**三宅島商工会女性部、「東京島しょ物産と観光展」に参加します！**

来る2月1日(土)と2日(日)の両日、東京都商工会連合会の主催で『東京島しょ物産と観光展』と銘打ったイベントが行われます。三宅島商工会女性部では、会場でアンケートに答えてくださった方に、キンメを使ったアツアツ島鍋を無料でサービスします。

会場内は、大島、神津島、新島、八丈島、小笠原などの特産品販売や観光紹介、新しい島の魅力がいっぱいです。

また、抽選コーナーでは、各島への往復チケットや島の特産品があたる抽選会を行っています。1等は小笠原へ2名、2等は伊豆各島へ5名、それぞれペアで往復船舶券が当たります。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

日時：2003年2月1日(土)・2日(日) 10:00～17:00

会場：**ぽっぽ町田** JR町田駅より徒歩5分・小田急線町田駅より徒歩8分

お問合せ：東京都商工会連合会 TEL：042-525-6821



## ご報告

108号でお知らせした「1.17灯りのつどい」が1月18日(土)千代田区の東京国際フォーラムで開催され、たくさんの方々の温かいご協力・ご参加により、大変盛況に無事終了しましたことをご報告します。ご協力、ご来場いただいた方々、ありがとうございました。

### いま、わたしたちに、できること。

2003年で阪神・淡路大震災から8年を迎えました。今年の東災ボは、阪神・淡路大震災の犠牲者の方々へ追悼の意を捧げるだけでなく、東京にいるわたしたちが、いま、できること、やらねばならないことを考える場にしようと、タイトルを「いま、わたしたちに、できること。」として、このイベントを開催いたしました。

### 二部構成

今年の『つどい』は、数多くのボランティア団体、企業、行政機関、個人の協力を得られることができました。

第一部14:00～16:30と、第二部16:30～18:00の二部構成。第一部では起震車体験、煙ハウス体験、消火器体験、応急救護体験、炊出し(甘酒)、防災クイズ、各種展示などの体験・展示ブースを中心に、第二部ではペットボトル、竹、グラスを使用した「1.17灯りのつどい」をメインに開催しました。

### 来場者1000人超!?

第一部では、起震車や煙ハウスから聞こえる若い女性の黄色い悲鳴に誘われて、多くの通行人が様々な体験コーナーを訪れていました。起震車を担当してくれた千代田区防災課の方の話では起震車を動かしたのがなんと271回。一度に4人乗せるということだったので、少なく見積もっても270回×3人=810人もの方々が起震車を体験していただけたこととなります。また、煙ハウス体験を担当していただいた丸の内消防署の方の話によると500人程度の参加があったということでした。(ちなみに、起震車・煙体験ハウスには行列ができる場面もありました)

### 胸に灯りを

第二部では「合唱団ききゅう」による合唱や、神戸で被災を体験した「よっちゃん」による弾き語り、明治学院大学付属東村山高校グリーンハンドベルクワイアによるハンドベル演奏などもあり、東京国際フォーラム内にいた通行人の方々も足を止め、ペットボトル・竹・グラスの中で灯されているろうソクを見つめながら、KOBEに想いを馳せていただくと同時に、来るべき災害への想いを向けることができたのではないかと思います。



### 三宅島島民の方にもご協力いただきました

「1.17KOBE」の灯り文字はペットボトルにろうソクをいれて作りました。港区港南の石井富久さんは避難先の自治会も動かして、1ヶ月前からペットボトル集めに協力。また、展示ブースに設けた語り部コーナーでは、石井さんの他、ゆめ農園場長の佐藤利吉さんご夫妻もおいでくださり、写真パネル展示や、ビデオの上映、震災発生当日の生々しいラジオ放送の視聴に集まったたくさんの来場者に、阪神・淡路大震災の被災者の方とともに、災害に見舞われた当事者としての体験談を語っていただきました。お寒い中、お付き合いいただきありがとうございました。